

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

多くの水田の稲穂が出てい始めた。作業する農家の人に尋ねると「出来は悪くないが、価格の動向が思わしくないので」との切実な声。

農林水産省の「米穀の取引に関する報告」の5月速報値での価格も長野コシヒカリは一方3000円台で価格が低迷している。肥料や関係経費の高騰が続いており、令和5年産米の仮渡し価格も期待できない中「真剣に農業経営の継続を考えなくては」と地域農業の今後を考える姿に、これまでにない一番の危機に立たされているのだと切実さが伝わってくる。

祖様の霊を招く「迎え火」で林の白樺の表皮を剥いで用意した記憶のある人も多いが、今はホームセンターなどの売り場で簡単に購入でき、多くの白樺の表皮が剥がされた状況が見られなくなった事は環境面でもうれしい事でもある。

夏休み、服部止さん

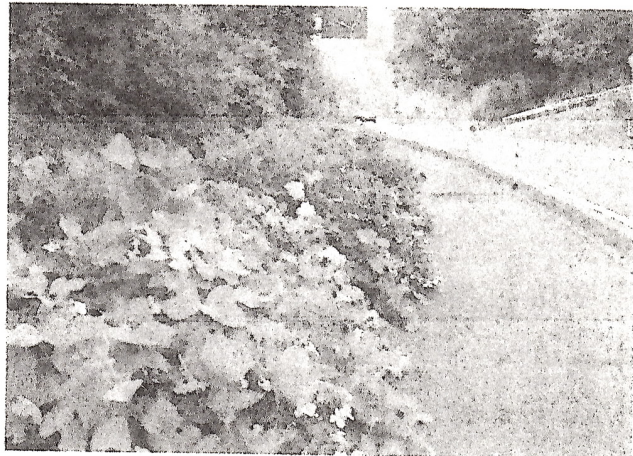
紹介している。小林さんは昨年88歳で死去されたが「北の宿から」で日本レコード大賞を受賞、「寺内貫太郎一家」での頑固おやじなど多くの分野で活躍した方でもある。

「つまらない仕事はない」の教えに学ぶ

「つまらない仕事はない。まずは「つまらない仕事」を名乗るな」「つまらない仕事は、まず「つまらない仕事」を名乗るな」

作曲の「ラジオ体操第一」が気になる時期でもある。皆勤賞を欲しなくてラジオ体操会場で通った思い出のある方も多いはずだ。服部さんに師事した小林亜星さんに伝えた教えを毎日新聞コラム余録さん

の課題だと信じ続けることが大切だ。多くの助言の中に人生を満ち足りたものにする教えがあると信じていた。小林さんの残した「うた」の数々を口ずさみながら、毎日を通して行きたいものだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



30年以上の取組で岩岳地域の沿道を彩るアジサイ。次の30年後の取組は